

外環道再々必要性について

PI 協議員 宿澤藤子

今年最後の協議会にあたって、

環境が人間をつくと云う言葉があります。

我が杉並区長も環境には充分関心をお持ちです。

人間は土を踏んで歩き、きれいな水の川で緑があって、という事がこの頃は「ゼイタク」になって参りました。コンクリートで固まった家で小川もなく、そこで遊ぶなんて知らない子供が多いでしょう。大人も小人も心の余裕がありません。自慢ではありませんが、私達の住むところは全部そろって居ります。

最近は、ダムとか地下鉄とか途中で中止が発表になるにつけて、私達凍結以来37年にもなって居る外環はなぜ今になって造りたがっているのかわかりません。

大深度になれば住民には迷惑がかからないと思って居られるようですが、とんでもない。素人の私が考えてもインターは無くてもジャンクション、換気塔等公害は明らかです。

人間が住んでいるからミヤコ(都)であって、会社、車、道路だけでしたらミヤコ(都)ではありません。単なる東京砂漠です。極論でしょうか？

もう一度考える必要があるんじゃないでしょうか。

わずか四里です。

環七が混むから環八を、又環八が混むから外環、それでは余りにも能が無く知恵もないのではないですか。行政の方々も本当の原点に戻って、住民のためにも御一考をお願い致します。

本当に初期の意見です。でも、これは初期から一貫した私の考えです。外環は必要ではありません。

以上

平成 15 年 12 月 18 日